



トキのためにできること...

トキと共に暮らすために わたしたちの取組み

トキとの共生をめざして

行谷小学校

日本で唯一トキを飼育したことがある行谷小学校では、「トキとの共生」をテーマに地域の自然環境や野鳥調べを行うなど、トキと環境に関する学習を活発に行なっています。

例えば、トキ資料展示館（新穂長歌）での解説員活動や、小学生同士の学習交流、自作のトキの歌の発表、子どもエコクラブへの参加など多岐にわたっています。

このような取組みに、第13回新潟県環境賞が贈られました。「トキが佐渡の空に戻ってきてくれて嬉しい」「全国の人にトキを知ってもらいたい」という受賞児童の喜びの声でした。



トキ解説員は今年で3年目の取組み。3年生～6年生までの児童が、1学期や夏休みに、トキについての解説をしています。



地域において優れた環境保全活動に贈られる「新潟県環境賞」を受賞しました。

人とトキが共に暮らせるように、気をつけることは？



行谷小5年 本間 朱音さん
洗剤の使いすぎに気をつけて、水を汚さないようにしたり、省エネに気をつける。みんながポイ捨てをしないで、トキが元気に空を飛び、住みやすい島になるといいな。



行谷小6年 仲塚 愛莉香さん
ごみは捨てないように、落ちていたら拾って、自然をこわさないようにすること。物を大切に最後まで使って、ごみを減らすように気をつける。トキがたくさん飛ぶ姿を、全国の人に見に来てほしい！

農業からの提案

朱鷺と暮らす郷づくり 認証制度

「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」は、トキを育む環境を作るため、環境に優しい佐渡米づくりに生きものを育む農法を組み合わせ、平成19年12月に発足しました。

267名の農家により434ヘクタールの水田で生きものを育む農法が実施され、冬期間には白鳥が舞い降り、8月にはコウノトリが飛来するなど、トキにとっても有効な餌場になっていくのではないかと大きな期待をしています。



佐渡・豊岡交流生きもの調査

一方では、農家も子どもたちも田んぼの生きもの調査に取り組みました。兵庫豊岡市の子どもたちと交流するなど、豊かな環境を学ぶ取り組みも進め



佐渡に飛来したコウノトリ



冬期湛水の取組み

認証された米は「朱鷺と暮らす郷米」として販売が予定されています。売り上げの一部を、佐渡市トキ保護募金に寄付するなど、食と環境をテーマに、生産する農家と消費者の皆さまが共感できるお米として、今後とも取り組みを進めます。